



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第38号
令和6年1月9日始業式
「第3学期の始業式にあ
たって伝えたいこと」

四気=川越中学校訓「やる気 ほん気 こん気 げん気」
学校教育目標 『 自立した生徒の育成 -自律・調和・創造- 』のもと
・自分を大切にすること ・他者を大切にすること ・粘り強くやり切る 生徒
・人を大切にすること ・安全で安心できること ・地域や保護者とともにある 学校 づくりを目指します

令和5年度 第3学期の『 始業式 』にあたり・・・

- (1) 「能登半島地震」から考える日常とこれからについて。いま私たちができることは、
当たり前には、なかなかできなくなっている時代だからこそ、「今を一生懸命に走れ！一生懸命に走ってほしい！」。甚大な被害を受けた多くの方々に想いを寄せながら・・・そして、いつ発生してもおかしくない「南海トラフ地震」にも備えながら。
- (2) 『 粘り強くやり切る生徒（集団） 』という考え方について。
- (3) 『 仲間とともに授業を大切に、授業を頑張る生徒（集団） 』という考え方について。

令和5年度のまとめとして、そして令和6年度につなぐことを目的として。「仲間と関わり合う」ことを通して一人ひとりが成長を続け、自分と仲間・クラス・学年としての成長を確かめ、新しい学年に向けて川越中学校みんなで、今を精一杯に頑張ろう！ 3学期も継続して、保護者の皆さまと地域の皆さまに支えられながら、ともに子どもたちの成長をバックアップしていきたいと思ひます。

【 第3学期 始業式での校長のことばより 】

(1) 『 能登半島地震 』から考える日常とこれからについて。

1月1日 日石川県を中心に激しい揺れにより甚大な被害を受けた多くの方々に対して心よりお見舞い申し上げます。一刻も早く、多くの子もたちが大切な学校にて大切な教育が安心安全な環境で仲間と一緒に受けられることも心から切に願っています。

1月1日(月)16時6分過ぎに、スマホの「緊急地震速報」が鳴り響きました。「大地震が発生します！」。大きな揺れを伴う地震は三重県でも数秒間続きました。私が思うに「東日本大震災」に次ぐ大きな揺れを体感した恐怖を伴う地震でした。

決して、他人事ではない『能登半島地震』。テレビ等で目の前に広がった様変わりした景色。多くの死者や負傷者、安否確認ができない多くの人々。避難所で暮らす方々。本当にいつその状況が発生するかもしれない今の世の中。そのようなことからいま、私たちができることは、今を大切に、今を一生懸命に生きること。当たり前の日常が当たり前で送れる今に感謝しながら。そして、川越町でもいつ発生してもおかしくはない、「南海トラフ巨大地震・津波等」に備えて・・・。一人一人が今日を一生懸命に生きること。

「今を一生懸命に走れ！明日に向かって一生懸命に走ってほしい！」。甚大な被害を受けた多くの方々に想いを寄せながら・・・。令和6年が川越中学校の子どもたちにとって、保護者の皆さまにとって、教職員の皆さまにとって、幸せな1年でありますように心から願っています。1年間よろしくお願ひいたします。

【 中日新聞1月8日の「社説」から 成人の日に考える 】

昨年の猛暑は格別でしたし、12月になっても日本全国で「夏日」を記録するなど日本では、「二季の国」になりつつあるという声も上がっています。地震をはじめ、豪雨など日本だけでなく、地球温暖化により世界中を異常気象が覆っている現状。年々、世界中の平均気温が上がっている中、国際社会は平均温度上昇を1.5度以内に抑えることを目標にしています。今のままなら今世紀のうちに、年間平均気温が3度まで上昇をする。この現状を「当たり前」として見過ごすわけにはいきません。未来を大切に生きるためには、この世界中の危機を乗り越えるしかありません。みなさんは、どんな未来に住みたいですか。住みたい未来にするためには、何を選べばいいのでしょうか。「のび太くん、未来は変えられるんだ！」ドラえもん決めゼリフ。みなさん次第で未来はきっと良い方向に変えられます。明日に向かって走れ！頻発する異常気象、人々の幸せに生きる人権を奪ってしまう戦争、元旦の大地震、炎上する航空機・・・。先が見えない世の中です。けれどこんなご時世だからこそ、「自分のペースでいいから走れ」と。立ちすくむ人の背中を優しく押してあげられる、そんな大人になってほしいとの願ひも込めて。ドラえもんは、こんなふうにも言っています。

『だいじょうぶ！未来は元気だよ！』。(以上、中日新聞社説から一部抜粋して)

(2) 『粘り強くやり切る生徒(集団)』という考え方について

「かわごえ・まなびのコンパス」に記載されている川越町教育基本方針です。『豊かな心』を土台とした学校教育、社会教育を推進しています。その中でも『豊かな心』を培うために必要なことは次の3つです。

- ① 非認知能力を高めること・・・「意欲・自制心・誠実さ・思いやり・優しさ・協調性・やり切る力」などのことをいい、人間の個性や心の面であったり内面的な、数値や点数で測れないことをいいます。
※「認知能力」とは「知識・技能」にあたる部分のことで、学力テスト等で測れるもの
- ② 個性を大切にすること(自分を大切にすること)
- ③ 相手の個性を尊重すること(相手を、他者を大切にすること)

川越中学校「学校教育ビジョン」では、教育目標の一つに、『粘り強くやり切る生徒』という大切にしたい柱があります。よく、こんな言葉を耳にします。「うちの子は、苦手なことだと、すぐにあきらめてしまう」「なかなか我慢することができない」など・・・。

「持続力(粘り強くやり切る力)」の低い子どもは、もともと持続力が低いとか、あきらめがちな性格だからとかではなく『粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』が不足しているからだと思います。言い換えれば、『粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』を積み重ねれば、「自分はやり切ることができる」と感じ、『持続力(粘り強くやり切る力)』がついていき、向上させることができると思います。

川越中学校では1・2学期の授業においても、行事においても、部活動においても、このような経験を積み重ねることを大切にしてきました。この積み重ねてきたことを3学期も着実に継続していきたいと思います。川越中学校のみなさんは、真面目に一生懸命に頑張れる生徒ばかりです。しかし、「粘り強くやりきる力」は、今のみなさんには絶対に必要な力であり、自分を磨き、高めていく上においても必須な力だと思います。

(3) 基本に戻る！『仲間とともに授業を大切にする。授業で頑張る生徒(集団)』という考え方について

3学期は1年間のまとめの時期でもあり、新しい学年、3年生のみなさんであれば新しい学校等での生活につなぐ意味でも大切な学期となります。みなさんの2学期の振り返りを見ても、学習・授業についての内容が圧倒的に多かったように思います。それだけ、誰もが大切に思っている内容だと思います。

1学期から大切にしてきた「仲間づくり」。「仲間と関わること」。この積み重ねを大切にしながら、『仲間とともに授業を大切にする。授業で頑張る生徒(集団)』となっていくことを願っています。誰もが「安心・安全」なクラスや学年ということは、誰にとってもクラスや学年が「居場所があり、あたたかく、居心地のよい場所」であるとともに、授業に一生懸命に頑張っている人がしっかりと認められ、授業を落ち着いて取り組める雰囲気があるということだと考えます。だからこそ、3学期のスタートにあたり、「基本に戻る」意味でも、授業への取り組みを2学期を振り返ることから、3学期につなげ、活かしてほしいと思います。充実した授業への取り組みから、「家庭学習」にもつなげてほしいと思います。クラスの大切な仲間とともに、どんどん声を掛け合い、教え合い、学び合いを通して、『仲間とともに授業を大切にする。授業で頑張る生徒(集団)』へと高め合っていくことを期待しています。そして、新しい学年、新しい学校等の生活へつなぐ。そんな3学期にしていきましょう。

明日1月10日(水)から、川越中学校の教職員に『生活支援員』が加わります。特別支援学級を中心に、子どもたちの生活にかかわる支援をしていただきます。「大和 亜希子(やまと あきこ)」先生です。明日発行する「学校だより第39号」に、あらためて紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。